

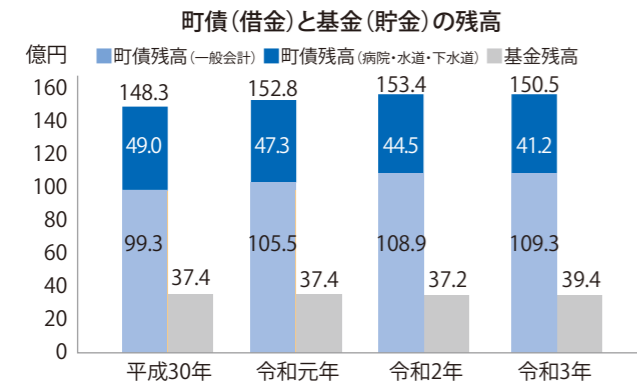
町債(借金)と基金(貯金)の残高

一般会計の町債残高は、昨年度から3千3百万円増加しました。新庁舎の建設以降、大規模な建設事業が続いており、町債残高が100億円を超える状況が続いています。一般会計でみると、本町は同じ規模の団体(類似団体)と比較して、町民一人当たりの町債残高が約2倍あり、今後も計画的な事業執行、繰上償還が必要です。

病院・水道・下水道会計の町債残高は、3億3千万円減少しています。※建物や道路、水道などの整備をするときは、国や金融機関からお金を借りて整備します。

基金は、今後の公債費(借金の返済費用)の増大に備えて、減債基金に1億5千万円積み立てるなどしたため、昨年度末から2億2千万円増加して39億円余りとなりました。令和4年度以降は、基金を取り崩しながらの財政運営となると見込んでいますが、国債などの運用益も確保しつつ、各事業の財源として有効に活用していきます。

※基金には定額運用基金と国保会計基金を含む



新型コロナウイルス感染症対策経費 3億9千万円

令和2年度から続くコロナ禍ですが、令和3年度も引き続き感染予防対策等を実施しています。主な事業は以下のとおりです。

■感染予防対策

- ワクチン接種関連費用 6,977万円
- 感染予防用品の購入 504万円
- 町営バス感染予防対策 159万円
- 体育施設・観光施設等感染予防対策 944万円
- 庁舎等オンライン環境整備 351万円
- 小中学校におけるオンライン学習環境整備 1,098万円
- 図書館感染対策 696万円
- マイナンバーカード普及促進 133万円

■団体等への支援

- 商工業者応援金 5,860万円
- 主食用米次期作継続応援金 2,851万円
- 子育て世帯臨時給付金 6,224万円
- 住民税非課税世帯等臨時給付金 6,075万円

■地域経済の活性化

- ふるさと応援宅配 170万円
- 元気回復券事業 4,822万円
- プレミアム商品券事業 2,122万円

まちの財政の健康状態を表す指標

実質公債費比率(3カ年平均) 9.4% (昨年度10.4%)

家計に例えると、年収に対してローンの年間返済額が何割あるかを表しています。

3カ年平均の値は、昨年度から1.0ポイント改善しました。しかし、単年度比率は0.8ポイント悪化していて、今後は公債費の増加に合わせて指標が悪化する見込みです。大規模建設事業の実施を平準化することで、町債の年間返済額も平準化していく必要があります。

将来負担比率 45.5% (昨年度60.3%)

家計に例えると、生活費や学費、家のローン、子どもへの送り費用などの「将来負担しないといけない費用」の合計が、年収の何年分あるかを表しています。昨年度から14.8ポイント改善しています。病院・水道・下水道会計の町債残高が減少したためです。

経常収支比率 92.5% (昨年度93.7%)

人件費や扶助費、借金の返済費用のように、毎年度決まって支払われる経費が、税金や普通交付税などの「使い道が限定されない毎年度経常的に収入されるお金」のうち、どの程度を占めているかを表しています。

比率が100%に近くなると、自由に使えるお金が少なくなり、財政にゆとりがなくなります。普通交付税の増加などによって、数値が改善しました。

町民1人当たり1世帯あたりで見ると

人口 4,595人
世帯 2,012世帯
[令和4年4月1日現在]

使った費用【一般会計】

1人 187万円
1世帯 426万円

負担した税金【一般会計】

1人 10万円
1世帯 24万円

町債残高【一般会計】

1人 238万円
1世帯 543万円

町債残高【全会計】

1人 327万円
1世帯 748万円

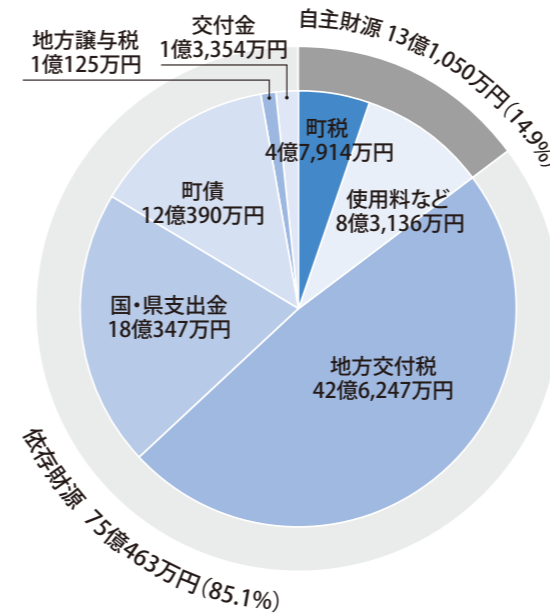
基金残高

1人 86万円
1世帯 196万円

収入

【一般会計】

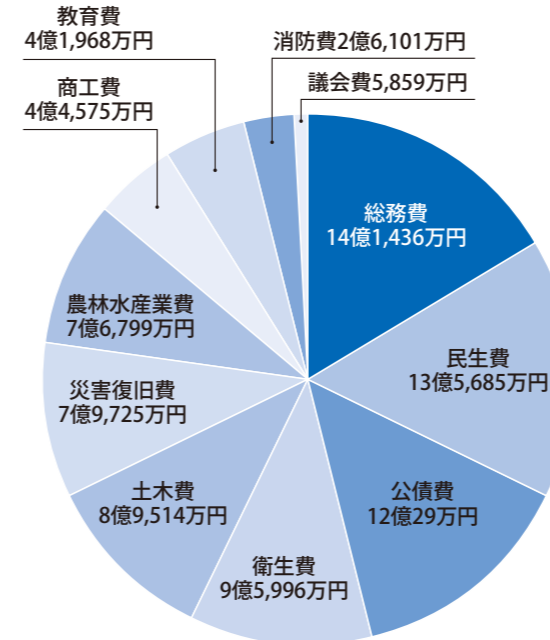
88億1,513万円



支出

【一般会計】

85億7,687万円



総務費…選挙、庁舎維持費、公共交通、地域振興などに使われる費用
公債費…町債(借金)の返済費用
民生費…保育所や高齢者・障がい者福祉、生活保護などに使われる費用
衛生費…予防接種や健康診断、ごみ処理、環境の保全などに使われる費用

令和3年度の一般会計と特別会計等の決算認定を、9月議会に提出しました。議会では、決算審査特別委員会を設置し、12月議会でも報告される予定で審査が行われています。

監査委員からは、今後も徹底した経費の削減に努めるとともに、優先度や事業効果も見極め、事業の抑制を図りながら、慎重な財政運営に努めることを求められています。

収入の状況

昨年度と比較して、自主財源は町税が1千7百万円減少したほか、ふるさと応援寄附金が8千7百万円減少、基金からの繰入金(貯金の取り崩し)は2億1千万円減少しました。依存財源は地方交付税が3億3千万円増加、国県支出金が4億1千万円減少、町債は3億2千万円減少しています。

令和3年度は、7月に発生した豪雨災害に関連する地方交付税が手厚く交付されたことなどもあり、基金の取り崩し額は一時的に少なくなりました。一方、令和4年度の予算は財源不足のため、多額の基金を取り崩して予算を編成しており、一層の施策の重点化と収入に見合った財政運営が必要状況が続いています。

令和3年度に実施した主な事業(新規事業など)

- 総務費** 町ホームページリニューアル、さつき会館空調設備更新、携帯電話鉄塔建設(獅子)、特定地域づくり事業協同組合の設立支援、町営バス・デマンドバス・自動運転車両の運行、飯南高校の支援、小さな拠点づくりの支援など
- 民生費** 外出支援タクシー助成、来島保健センター空調設備・照明改修、高齢者・障がい者福祉、出産祝い金、子ども等医療費助成、保育所運営など
- 衛生費** 医療従事者確保対策助成金、各種健診・予防接種、火葬場運営、ごみ処理施設の運営など
- 土木費** 町道整備、道路除雪、県営住宅取得など
- 農林水産業費** 鳥獣被害防止対策、中山間直接支払、農業担い手支援、リースハウス団地整備(13棟)、育苗センターハウス改修、農道整備、農業基盤整備、ため池改修、地籍調査、町行造林事業など
- 商工費** 創業支援、観光施設運営・維持管理、森林セラピーロード整備など
- 教育費** 学習支援館運営、ICT教育の推進(デジタル教科書)、スクールバス更新(1台)、公民館事業、給食センター空調設備工事など
- 消防費** 消防団車両更新(2台)、来島消防防災センター整備、7月豪雨災害土砂撤去費助成など

令和3年度

まちの決算